例会抄録

医方卷石秘録にみられる洋式外用薬について

中西淳朗

横浜市金沢区瀬戸の金龍禅院から、近年〝医方卷石秘録〟という処方集が発見されたことは、演者はすでに治痘法と薫薬法に関連して報告したところである。今回はこの処方集の中から西洋式外用薬の古処方三種を紹介する。

イ、羅阿綿法（第七十丁に収載）

〝文仲伝、下疳瘡ノ腐蝕セル者ヲ治ス。紅花五分、乳香、沒薬各二、樟脳二匁、右四味燒酒一合ニテ煮七勺ヲ取リ患処ヲ日ニ三回洗フ。此方紅毛人ノ伝フル所、瘡ノ腐蝕ニハ必ラズ虫アリ此薬ヲ以テ虫ヲ殺スト云フ。

この処方集の編者・島鴻子という人は勉強家で、山脇東洋、永富独嘯庵、和気惟亨らの書物からの引用もある。従って演者は、この洋式外用剤の処方を紅毛人から聞いて伝えた文仲なる人物は、東洋の弟子栗山孝庵（十八世紀の長州人）であろうと考える。

こゝで羅阿綿のことを探索する。外来語便覧（小桜書房）をみると、ラーメンはドイツ語とある。

コンサイス独和辞典をみるとRahmenは、かまち、骨組みのこととある。同書を続いてみていくとrammen・打ちくだく、打ち固めるとある。

このrammenを講談社のオランダ語辞典でひくと、たゝき壊す、激しくぶつけるとある。

やっと虫を殺すに通じる語に達した。シフィリス命名者フラカストロの接触物質（コンタギオン）説が、二百年以上前に日本に伝わったのであろうか。さらに研究を要する。

因みに、中華そばのラーメン（拉麵）は横文字でかくとlāmianとなるそうである。

ロ、ハシリコン法（第七十四丁）

処方は〝黄蠟二百目、胡麻油百目一升也、チャン百六十目、松脂八十目、マンティカ八十目。

チャンは瀝青・レジンのことでエーゲ海キオス島のものを良とする。橋本宗吉は「瀝青…蘭ペキ、羅ピクス、多脂の樹木より採りたる脂なり。松、樅及びテレメンチナの木より火を用いて流れ出せるを採る」と『三法方典』に書いている。

マンティカ（Adeps suillusのポルトガル語）は豚脂である。

このハシリコン方は、インクエント・バジリコンとかインクエント・バジリコムとか云われる処方が多い。成分分量の差により硬軟二種となる。

硬い方を岩熊 哲氏は貴要軟膏とよび、軟い方を橋本宗吉は君主膏と呼んでいる。前出の処方は中間の型、即ち吉雄流処方の変法と考えられる。

バジリコは神殿建築の用語のようである。ハシリコ＝ハシリコン＝莨菪根＝タバコ根と飛躍し、タバコの葉を加えた変

法もある（群馬県勢多郡富士見村・船津氏所蔵の「阿蘭陀外科書」に収載）。

ハ、カンフラ法（第七十四丁）

処方〃白蠟二百目、胡麻油百八十目、唐土三百目、マンテイカ一斤、片脳三十四目、椰子油二十四目。

まず椰子油、白蠟、胡麻油を弱く煎じ後に唐土、片脳を加え強火で煮るとある。マンテイカは最後に入れるらしい。椰子油も入るのでまずポルトガル流である。

「吉雄紅毛膏薬書」では植物油が茨の油に変っており且つマンテイカを使用しない。しかしながら豚脂は意外と寿命は永く、わが国においても一九七〇年頃まで使用されていた。

こゝに報告したハシリコン法、カンフラ法は共に切創用の外用薬処方と考えられる。詳細については、月刊「皮膚病診療」第二十三巻第二、三、四号（二〇〇一）協和企画、に〃外用剤の洋式古処方あれこれ〃と題して連載されているので参照下されば幸甚である。

（平成十二年十一月例会）

吉益脩夫――断種法をめぐる人びと（その四）――

岡田靖雄

吉益脩夫（しゅうふ）は、吉益東洞から七代目になる。すなわち、東洞―猷（字修夫）―順（猷の第二女の夫）―震（猷第一女の子）―鐵太郎（震の娘の夫）―雄太郎―脩夫とつづく医家である。

一八九九年（明治三二年）七月一一日、岐阜県大垣市にうまれた。一九二四年（大正一三年）三月東京帝国大学医学部を卒業、同級に小林芳人、前田忠重がいた。精神病学教室（呉秀三教授→三宅鑛一教授）にはいる。一九二五―二六年、東京府立松沢病院医員。一九二七年九月から、司法省より受刑者の精神考査を嘱託された。一九三六年（昭和一一年）三月、東京帝国大学医学部講師、同四月脳研究室第二部主班。一九四五年脳研究室助教授、一九五六年脳研究施設教授。一九六〇年（昭和三五年）三月脳研究施設を定年退官し、四月東京医科大学医学部附属総合法医学研究施設犯罪心理部門教授。一九六五年三月定年退官。一九七四年（昭和四九年）七月一四日死去、七五歳。

やせ型で、結核をわずらっていた。ひょうひょうとしていながら、せっかちな人柄。脳研究施設では小川鼎三先生といっしょで、お二人のとぼけた会話は、吉益門下の小木貞孝氏（加賀乙彦）の頭医者ものにえがきだされている。

仕事の中心は犯罪精神医学である。一九四二年に医学博士の学位を取得した学位論文「精神病質の遺伝生物学的考察」（一九四一年）は、双生児法による本格的な精神疾患研究の最初のものである。犯罪始期、犯罪の反復と間隔、犯罪の方向（単一方向、同種方向、異種方向、多種方向）の組み合わせによって、たとえば早発―異種方向―持続型などと犯罪者を分類